



## 申8号夏季手当第1回交渉を開催!

5月27日(金) 申第8号「2022年度夏季手当の支払いに関する申入れについて」第1回交渉を開催しました。

### 組合側から主旨説明

- ◇3月16日福島県沖地震早期復旧は関係者の奮闘で早期復旧ができた。技術継承が本当になされているのか課題が残った。
- ◇ご利用状況はコロナ前の8割に戻るだろうとの予想であったが、7割しか戻っていない厳しい状況は認識している。
- ◇新型コロナウイルス感染症防止対策を進めながら、安全・安定輸送を最優先に進めている。
- ◇夏季手当は生活給の一部であり、子育て、住宅ローンの返済に必要である。また、今後の物価上昇による生活に影響を及ぼす。
- ◇一律5万円は、コロナ禍における社員の頑張りと、若手・エルダー社員に手厚い支給により夏季手当の重みを感じられる。今後のモチベーション維持と施策への取り組みにおいて実感できる手当が必要。

### 会社側から現状認識・基本的スタンス

- ◆新型コロナウイルス感染症に対する様々な感染防止対策を徹底しながら、安全・安定輸送、品質の高いサービスの提供、3月16日に発生した福島県沖地震の復旧等、当社の社会的使命を果たしていることに改めて御礼を申し上げます。
- ◆令和3年度の期末決算は前年度の新型コロナウイルス感染症の反動等で増収増益となっているが、過去二番目に低い営業収益・運輸収入となっている。
- ◆4月鉄道運輸収入・GWの新幹線・特急列車のご利用はコロナ前の約7割である
- ◆「変革2027」の実現に向けた新たな価値観やサービスの提供、仕事の抜本的な見直しにより、効率的な事業運営とスピードアップかつ柔軟な対応が必要。
- ◆今年は新たな仕事と組織のスタートの年である。将来にわたりサステナブルに事業を運営し、社員の働き方や創造力の向上により社員・家族の幸福につながる好循環を生み出す。お客さまの近くで創意を發揮し、役立つサービスを創造し新たな価値を切り拓いていくのは変革の主役である社員一人ひとりである。変革の方向性を認識し変化を恐れず、構造改革を力強く進める。
- ◆夏季手当の議論にあたっての基本的なスタンスは、会社の持続的な発展が社員還元のためさらなる充実、働きがいの向上、社員・家族の幸福の実現に繋がると考えのもと、2期連続で大幅な赤字を計上しているという非常に厳しい経営環境、直面する経営課題について認識を共有することが、今夏季手当の議論の前提となる。すでに新たな仕事と組織のスタートに向けた準備、柔軟な働き方や系統横断的な連携が始まっている。成長戦略を一層推進しポストコロナ時代に向けて、「変革2027」のレベルとスピードを上げ、変化にスピーディーに対応できる新しい会社を創り上げなければならぬ。
- ◆直近の業績動向を念頭に支給水準については慎重に判断しなければならないという認識のもと、総合的に判断していく必要がある。早期合意を念頭に、スケジュール感を持ち真摯に議論を進めていく。